

## 5. 外国語学研究科

### 【到達目標】

現在の本学外国語学研究科のおかれている社会的状況を考慮しながら大学院生の定員の充足を目指す。本学外国語学研究科の研究教育能力に適合した定員の充足を、学内推薦制度と秋季と春季の二度の入学選抜試験によって行う。

### 【現状説明】

1) 英語英文学専攻においては主として本学外国語学部英語英文学科の卒業生を博士前期課程、後期課程において受け入れている。また英語英文学専攻においては昼夜開講制により、英語教育に携わる中学校・高等学校の教員やビジネスマン等の社会人を受け入れる制度を導入している。受け入れは秋季・春季の入学選抜試験によっている。また、秋季は学内推薦制度も取り入れている。

中国言語文化専攻では本学外国語学部中国語学科の卒業生を受け入れるとともに、他大学の学部及び大学院博士前期課程の学生、大学院生をも受け入れている。受け入れは秋季、春季の入学試験による。また国費の留学生については日本政府奨学金を受給している中国からの留学生2名を博士後期課程に受け入れ、そのうち一名は2008年3月に博士（文学）の学位を取得し、もう一名は2008年4月現在、博士後期課程一年次に在学中である。

### 2) 学生募集方法・入学者選抜方法の具体的内容

入学者選抜は秋(9月)と春(2月)の2回、いずれも筆記試験（外国語科目と専門科目）と口述試験を行っている。博士前期課程においては本学の外国語学部からの学生は、一定の基準を満たす成績優秀者の場合、筆記試験を免除している。また博士後期課程においても本学博士前期課程修了者を成績が一定基準を満たす場合には、修士論文と口述試験によって受け入れている。

外国人留学生は一般の学生と同一の試験を受けて入学しており、規定上の外国人留学生はまだ受け入れていない。なお社会人の受け入れについては、昼夜開講制の制度を設け、入学を可能にする条件を整えている。

科目履修生・研究生は若干名を受け入れており、教員免許等に必要な単位を修得する機会を提供している。また研究生は本学博士前期課程、後期課程への入学の準備をさせている。科目履修生は教員免許に必要な単位を修得しており、また研究生は入学試験に合格している。

定員管理（2004～2007年度の充足率、定員全体を1とする）

専攻	課程	2004	2005	2006	2007
英語英文学専攻	博士前期課程	0.4	0.5	0.6	0.4
	博士後期課程	0.4	0.4	0.4	0.3
専攻	課程	2004	2005	2006	2007
中国言語文化専攻	博士前期課程	0.2	0.5	0.5	0.7
	博士後期課程	1.0	1.3	1.2	0.8

### 【点検・評価】

本研究科の大学院生の定員の充足率の評価を上記の数値をもとに検討する。数値によれば、英語英文学専攻は定員の充足ができていない。また中国言語文化専攻は前期課程の充

足率に改善の余地がある。もちろん定員の充足については本研究科のおかれた社会的状況とすりあわせて、大学院生の将来における職業選択等の条件をも考慮した上で総合的に判断しなければならないが、この点を考慮してもなおそれぞれの数値は適正なものであるとは言えない。中国言語文化専攻の後期課程の数値が高いが、これは他大学院博士前期課程からの進学者がいることと、定員数自体が2名で、数値が小さいことによるが、充足率を満たしていると判断される。

本研究科の置かれている現状について、とりわけ大学院生定員の確保に関連して、その社会的背景を予め明らかにしておかねばならない。

現代の日本社会においては、高度の外国語運用能力を有する人材について、専ら学部卒業生に依拠し、研究科の卒業生を採用する慣行的制度が存在しない。言い換えれば、博士前期課程において、高度の外国語運用能力を習得しても、それが一般企業などへの就職には結びつきにくい現実がある。この点で、外国語学研究科と理工系の研究科とは異なる立場にある。にもかかわらず、時代の要請により、大学の研究と教育の質の向上を目的とした大学院の充実が喫緊の課題となったため、本研究科においても、収容定員の拡充が求められてきた。こうした社会的背景のもとでは、本研究科の理念と目的を、研究科の定員の充足という量的側面において実現することは極めて困難であることを認識する必要がある。と同時に、こうした現実に対して、本研究科がなすべき十全の努力を行ってきたかと自問するとき、自ら然りとは言い難い状況にあることも認めなければならない。特に、実社会において必要とされる外国語運用能力、翻訳能力、調査能力などの教育の充実、或いは本研究科の卒業生の進路獲得のための積極的支援の不足などが、現在のいわゆる定員割れをもたらしている原因の一つである。

以上の状況に鑑み、本研究科の大学院生の受け入れは、そのための相当の努力が払われており、その点では一定の評価を与えることが可能であるが、進路獲得などについては必ずしも十分とは言えず、早急に改善を図る必要がある。

### 【 改善方策 】

- 1) 英語教育・英語学、英米文化・英米文学コース、スペイン語圏言語コース、比較言語文化コースの4コースからなる国際言語文化専攻（仮称）を設け、新たな魅力あるカリキュラムによって、社会の多様な要請にこたえる人材を育成する。
- 2) 指導教員のシラバス等の充実を図ることにより、本学学部学生及び他大学学部学生、大学院生に対して本外国語学研究科の教育研究内容を詳細に伝えることにより、定員の充足率を高める。
- 3) 大学院生の実態から判断すると本研究科においては外国人教員を指導教員に希望する大学院生が多い。これは本研究科の研究内容と密接な関わりがあるためであると思われるが、この傾向は今後も続く予想されるため外国人教員を中心とした指導教員の充実を図る。
- 4) 海外特に中国における留学生の募集に力を入れる。現在、大学全体の留学生受け入れの制度の整備拡大が企画されており、その企画が一定の成果を得れば、その企画に従って留学生の受け入れを拡大する。
- 5) 就職課と協力して、高度な外国語運用能力を有する人材を採用するよう企業に働きかけるなど、大学院生の進路獲得のため研究科として継続的に努力する。